

# 1. 評価結果概要表

**【評価実施概要】**

事業所番号	0292500071		
法人名	社会福祉法人 愛の園		
事業所名	グループホームゆったりハウス		
所在地 (電話番号)	〒039-3156 青森県上北郡野辺地町上小中野80-190 (電話) 0175-64-3574		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年1月12日	評価確定日	平成22年3月4日

【情報提供票より】(平成 21年 12月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	7,500 ~ 10,500 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要( 12月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2			
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立野辺地病院、中里医院
---------	--------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

住宅地から少し離れた場所に立地しているが、民生委員との関係を深めたり、外出時のボランティアの活用や、近隣施設との連携などにより、地域との交流が図られている。また、開設以前は高齢者用賃貸住宅であったため利用者のほとんどが従前からの顔なじみであり、当時利用していた通所介護事業所などとも連携して利用者の支援を行っている。居室には利用者が自宅ですべて使っていた家具などが持ち込まれ、自宅にいるような雰囲気の中でゆったりとした生活を送っている。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義は各職員に周知されているが、自己評価の内容についても職員間で情報共有が図られるよう期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者や家族から積極的に意見を取り入れているほか、町職員や民生委員から外部の情報を得て利用者の支援に繋げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や定期的な報告時に意見等を出しやすいような雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>関係機関との連携や、地域行事への参加などにより地域との協力体制を築いている。また、近くへの外出時に地域の方々と挨拶を交わし、日頃から触れ合いを大切にしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の権利を尊重し、地域の医療・福祉と連携しながら職員の育成に努めることで、質の高いあたたかな介護を目指すという理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂ホールや事務室に掲示されており、申し送り等を活用し、日々実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	比較的、住宅地から離れた場所に立地しているが、近隣住民との日頃の挨拶や地域の四季の行事への参加、近隣の障害者施設との交流、ボランティアの活用などにより、交流を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回が初めての評価となるが、外部評価の意義は職員に周知されている。</p>		<p>自己評価の内容についても職員間で情報共有が図られるよう、取り組みに期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>民生委員、町職員、利用者や家族からなる運営推進会議が2ヶ月に1回開催され、民生委員から地域の情報が得られているほか、利用者からの要望などを取り上げ、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年に数回、町の介護相談員派遣事業により課題解決に繋げているほか、必要に応じて町からの情報を運営に取り入れている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、権利擁護事業や制度を利用している利用者はいない。制度に関して、管理者等は概要を把握しているが、職員への研修、制度の周知は行っていない。</p>		<p>今後の必要性に備え、職員研修などにより制度の周知がなされるよう期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の虐待が見過ごされないよう、日々の介護状況や申し送りの報告などに注意を払っているが、特に研修等は行われていない。</p>		<p>職員研修等により虐待に関する基礎知識を深め、職員が共通認識をもつことで、今後も虐待防止への取り組みがなされるよう期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、費用面や終末期への対応など、わかりやすい表現で十分な説明がなされている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時の報告のほか、月に一度は金銭管理や日常の様子について、手紙や電話で報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議などの場面で意見や苦情等を話しやすい雰囲気を作ることに努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤務時間や日数等、ゆとりをもって働けるよう配慮されているほか、新しい職員が配置された場合は、同僚や上司が時間を掛けて関わり、利用者の混乱が生じないように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が年に一回以上は外部研修に参加できるよう計画されており、内部での伝達も積極的に行われている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で構成する組織には加入していないが、研修会等の出席時に交流を持つように努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの利用者が、この事業所の前身である高齢者用賃貸住宅の入居者で馴染みがあるが、新規利用者には本人や家族と相談しながら、馴染んでいけるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの個々の生き方を尊重し、一緒に考えたり、得意なことを教わるなど、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話や表情、行動などから利用者個々の気持ちを把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議により本人や家族から出された意向や要望、職員から出された意見を反映した介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に応じて、本人や家族、関係機関との話し合いを通じて現状にあった計画を作成している。		よりよい計画作成につなげるため、アセスメント票など基本情報の書類整備が進むよう期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援等できる限り本人の要望に応えているほか、系列機関である通所介護事業所とも連携し支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって、かかりつけ医を受診し、連携することにより適切な支援が出来るよう努めている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には、終末期の方針について十分な説明を行っているほか、随時、状況に応じて話し合いの場を設けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や失禁時等は、他利用者に気付かれないように配慮した言葉かけや対応をしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望が表しやすいよう声がけしたり、表情などから感情を汲み取り、その人らしく過ごせるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の上昇などにより、皆で協力して作業する場面は減り、調理は外部に委託しているが、個々の得意なことが発揮できるよう場面作りをするなど支援している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週2回曜日等を決めて入浴しているが、利用者の希望にも出来る限り対応するよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の上昇などにより、日常の活動は不活発になってきているが、洗濯物たたみやお菓子作り、野菜作りなど、本人の状況や意向を確認しながら、役割や楽しみごとの支援をしている。		よりよい支援に繋げるため、個々の生活歴等を記録、書面化することにより、情報の共有がなされるよう期待したい。
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、買い物、理美容院や地域行事への参加などを計画して、ボランティアの協力を得ながら支援している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないことを基本にしているが、本人の身体状況、職員配置などの状況によっては、安全のために家族の同意を得て、一時的に拘束する場合がある。		研修やマニュアルの整備などにより、全職員が身体拘束について正しく理解し、拘束しなくても支援できるような取り組みが実践されるよう期待したい。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が高まる夕方の時間帯などで、職員の対応が困難な場合には、家族の同意を得ておき、安全のために一時的に施錠する場合がある。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署員立会いのもと避難訓練や消化訓練を行っている。また、近くの障害者施設に対しては有事の協力関係が保たれるよう連携している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示を得ながら適切な支援を行っている。また、個々の摂取量を記録し、必要に応じた水分摂取、補食を行っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	関係機関からの情報提供に対して必要な措置を講じているほか、予防対策事項(外出時はマスク着用、うがい手洗いの励行等)の掲示や、マニュアルの整備により感染症予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節や天候に応じて、換気や遮光を行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたものや、個々の趣向に応じたものを持参していただき、自宅にいるような空間となるよう工夫されている。</p>		

 は、重点項目。